

# 第 24 回硬組織再生生物学会学術大会のご案内

第 24 回硬組織再生生物学会学術大会および総会を下記の要領にて開催いたします。皆様の多数のご発表とご参加をお待ち申し上げます。

第 24 回硬組織再生生物学会学術大会

大会長 大浦 清

準備委員長 天野 均

場所：大阪歯科大学創立 100 周年記念館  
(大阪市中央区、大阪歯科大学天満橋学舎)

期日：2015 年 8 月 21, 22 日 (土)

## 演題募集要項

### 1. 一般事項

後掲の「演題抄録 作成例」を参考に、演題名、発表者名、所属、連絡先、発表形式等を記入して、下記の学会準備事務局宛てにお送りください。

本大会も昨年と同様に優秀なプレゼンテーションの表彰を行います。“口演”と“ポスター”の各演題から 1～3 演題程度を表彰する予定です。特に若い先生方は奮って、ご応募お願いいたします。

### 2. 発表形式

演題は下記の 2 通りを用意いたします。第 1 希望の発表形式（口演またはポスター）を抄録に必ず記載してください。演題数によってはご希望に添えない事もあります。その場合、発表形式の決定は事務局に御一任下さい。

1) 口演発表演題：発表時間 7 分＋質疑応答 3 分＝計 10 分を予定しております。液晶プロジェクター 1 台（パワーポイントで作成願います）

2) ポスター演題：自由討論時間として 1 時間を予定しております。  
横 90 cm × 縦 150 cm 程度のスペースを予定しております。  
発表要綱の詳細は、各演者の先生に別途ご連絡申し上げます。

3. 抄録記載要綱（見本を後掲）

- (1) 和文演題名、発表者名、所属（代表発表者に下線）
- (2) 和文 300 字以内の発表内容の要旨（目的、方法、結果、考察等を簡潔明瞭に）
- (3) 英文の演題名、発表者名（フルネーム）、所属
- (4) 英文 100 words 程度の発表内容の要旨（和文の内容と一致させて下さい）
- (5) 連絡先（住所、電話番号、e-mail アドレス）
- (6) 希望する発表形式（口演またはポスター）

4. 申し込み方法

e-mail で hard2015@cc.osaka-dent.ac.jp まで、3. 抄録記載要綱の (1)～(6) を MS-Word の添付ファイルとして送付してください。

なお、ファイル送付した後、3 日経過しても受領の返信がない場合には同 e-mail アドレスにその旨ご連絡下さい。

5. 問い合わせ先

〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町 8 - 1

大阪歯科大学薬理学講座内

第 24 回硬組織再生生物学会学術大会準備委員会

準備委員長：天野 均 [amano@cc.osaka-dent.ac.jp](mailto:amano@cc.osaka-dent.ac.jp)

TEL：072-864-3058

FAX：072-864-3158

6. 締切期日

2015 年 6 月 ~~19~~<sup>26</sup> 日（金）

7. 理事会

2015 年 8 月 21 日（金）16：00～

場所：大阪歯科大学附属病院本館 14 階レストラン

「プラザ・フォーティーン」

理事懇親会 8 月 21 日（金）18：00～

\*事前にご案内申し上げます。

## 見本（抄録記載要領）

### 演題抄録 作成例

ジクロフェナクナトリウムによる骨吸収抑制機序に関する研究

天野 均、大浦 清

大阪歯科大学 歯学部 薬理学講座

ジクロフェナクナトリウム(DS)は、一過性の低Ca血症の惹起やヒト閉経後骨粗鬆症治療薬としての臨床応用が報告されている。本研究では破骨細胞の形成・分化過程におけるDSの影響を検索した。DS添加群において濃度依存的、かつ統計的有意にTRAP陽性多核細胞数と骨吸収能が減少し、破骨細胞形成・分化の抑制が明らかとなった。IC50は、破骨細胞形成抑制では200 $\mu$ Mであったのに対し、骨吸収能抑制ではさらに低濃度の10 $\mu$ Mでも十分な効果が得られた。骨吸収を防止する長期の治療計画として解熱鎮痛薬を投与することは有益であるかもしれない。また、DSはNF- $\kappa$ B活性阻害により骨吸収が抑制されたものと考えられる。

Effect of diclofenac sodium on osteoclast formation and activation.

Hitoshi Amano, Kiyoshi, Ohura

Department of Pharmacology, Osaka Dental University

We investigated the influence of diclofenac sodium (DS) on osteoclast formation and activation in order to examine the resorption inhibitory effect of these agents. Both osteoclast formation and bone resorption levels displayed a statistically meaningful decrease in dose-dependent fashion in the DS group. Inhibition of osteoclast formation was observed in the presence of 200  $\mu$ M IC50. However, bone resorption ability was suppressed completely at less than 10  $\mu$ M IC50. It may be beneficial to administer analgesic antipyretics as a long-term therapeutic regimen to prevent bone resorption. DS exerts bone resorption inhibitory effects via NF- $\kappa$ B activity suppression.